教育委員会事業評価表

（評価対象 令和 4 年度）

○事業名及び予算額等

1 事業名	私立高等学校等授業料補助事業						
2 担当課名	教育庶務課		担当者名	山本　陽子		内線	4105
3 予算科目	会計		一般会計	款	10	教育費	
	大事業	3	私立高等学校等授業料補助事業	項	1	教育総務費	
	中事業	0		目	2	事務局費	
4 事業費（当該事業に関する部分のみ）	予算額	6,292,000円		決算額	5,977,766円		
	主な支出（科目、金額）	補助金	5,977,766円				

○事業の内容

5 事業の概要（誰のために何を行うか）	私立高等学校等に在籍する生徒の授業料負担者（保護者）の負担軽減を図るため、授業料を補助する。 補助金額は、所得に応じて（年額）3万円～1万円。 【経緯】 ・平成31年度　一律の補助金額から所得に応じた補助金額に変更 ・令和2年度　低所得者層の補助金額を増額 ・令和4年度　通信制高等学校を補助対象に追加
6 事業の目的、効果	公私立の学校間における授業料負担の格差是正を図り、もって教育の機会均等の原則を確保することを目的としている。授業料負担の軽減により、私学選択の自由、教育の公平の実現に寄与している。 【交付実績】 ・令和2年度　4,683,400円（交付人数336人） ・令和3年度　4,085,950円（交付人数287人） ・令和4年度　5,977,766円（交付人数398人）

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	ここ数年、通信制高等学校の開校が相次ぎ、通信制高等学校へ進学する者及び普通高等学校を退学後に通信制高等学校へ入学するケースが増加しており、今後も増加傾向が見込まれる。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	②現状維持	令和2年度、令和4年度の見直しにより、概ね適切な制度になっていると考えている。ただし、今後、国及び県の補助制度に変更等があった場合には、随時、対応を検討する予定。
9 事業の問題点	申請漏れを防止するため、学校等への周知のほか、西尾市公式ＬＩＮＥなどのＳＮＳを活用し、引き続き本制度の周知に努めていく必要がある。	

教育委員会事業評価表

（評価対象 令和　4　年度）

○事業名及び予算額等

<table>
<tr><td>1 事業名</td><td colspan="8">小学校水泳指導支援事業</td></tr>
<tr><td>2 担当課名</td><td colspan="3">学校教育課</td><td>担当者名</td><td colspan="2">深谷　博典</td><td>内線</td><td>4203</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3 予算科目</td><td colspan="2">会計</td><td>一般会計</td><td>款</td><td>10</td><td colspan="3">教育費</td></tr>
<tr><td>大事業</td><td>05</td><td>保健体育事業</td><td>項</td><td>1</td><td colspan="3">教育総務費</td></tr>
<tr><td>中事業</td><td>00</td><td></td><td>目</td><td>3</td><td colspan="3">教育指導費</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4 事業費（当該事業に関する部分のみ）</td><td>予算額</td><td colspan="2">15,276,000円</td><td>決算額</td><td colspan="4">15,092,000円</td></tr>
<tr><td>主な支出（科目、金額）</td><td colspan="2">12小学校水泳指導支援事業委託料　15,092,000円</td><td colspan="5"></td></tr>
</table>

○事業の内容

5 事業の概要（誰のために何を行うか）	【対象】矢田小、花ノ木小及び横須賀小の児童 【概要】校舎増築や老朽化などの理由で学校プールが利用できなくなった小学校３校の水泳授業について、温水プールを利用した水泳指導支援業務として民間事業者に委託して実施した。なお、実施にあたっては、温水プールを利用した小学校水泳指導支援事業の検証を行うため、令和元年度から令和４年度までモデル事業として実施したところである。 ・モデルプランＡ：民間の温水プールを利用した水泳指導支援事業 ・モデルプランＢ：公設の温水プールを利用した水泳指導支援事業
6 事業の目的、効果	・本事業は「小学校学習指導要領」が求める水遊びや水泳運動などを通じて、発達段階に応じた水泳技能を学ぶことに加え、「水辺に囲まれている」という本市の地理的環境を考慮し、水難事故に対する防衛知識と能力を育むために実施したものである。 ・事業効果として得られたことは、「天候や季節に左右されない安定した学習環境」、「専門インストラクターによる指導」、「命を守るための安全水泳指導の充実」、「授業中の安全管理・支援体制の充実」などであり、教育的効果は非常に高い。加えて、学校プール管理が不要となり教員の他職務従事が可能になった。また、実施校の児童、保護者、教員へのアンケート結果でも大多数から好評を得ている。

○事業の状況

<table>
<tr><td>7 事業を取巻く環境の今後の変化予測</td><td colspan="2">小学校プールは、全25校中、築50年以上経過した学校が5校、40年以上が14校であり老朽化が進んでいる。（令和５年度時点）こうした中、本事業の検証結果も踏まえ、令和５年３月に定めた「小学校プール管理運営基本方針」において、「小学校の水泳授業については、速やかに温水プールへの移行を目指すものとする。」などの方針が示された。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">8 今後の事業の方向性</td><td>方向性</td><td>左の「方向性」を選択した理由</td></tr>
<tr><td>①拡大</td><td>「小学校プール管理運営基本方針」で示された「移行の順序については、原則として、学校プール建築後50年を経過した学校から順次利用が可能な温水プールの水泳指導支援事業を実施する。」方針に基づき、小学校の水泳授業については、令和15年度を目標に温水プールへの全面移行を目指す。</td></tr>
<tr><td>9 事業の問題点</td><td colspan="2">「小学校プール管理運営基本方針」で示された温水プールへの移行時期が遅れれば遅れるほど、学習環境の平等性を確保する時期も遅れる。</td></tr>
</table>

教育委員会事業評価表

（評価対象 令和　4　年度）

○事業名及び予算額等

<table>
<tr><td>1 事業名</td><td colspan="8">寺子屋にしお事業</td></tr>
<tr><td>2 担当課名</td><td colspan="3">生涯学習課</td><td>担当者名</td><td colspan="2">本田尚代</td><td>内線</td><td>55-3515</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3 予算科目</td><td colspan="2">会計</td><td>一般会計</td><td>款</td><td>10</td><td colspan="3">教育費</td></tr>
<tr><td>大事業</td><td>3</td><td>生涯学習推進事業</td><td>項</td><td>5</td><td colspan="3">社会教育費</td></tr>
<tr><td>中事業</td><td></td><td></td><td>目</td><td>1</td><td colspan="3">社会教育総務費</td></tr>
<tr><td rowspan="4">4 事業費
（当該事業に関する部分のみ）</td><td>予算額</td><td colspan="2">5,420,000円</td><td>決算額</td><td colspan="4">4,860,600円</td></tr>
<tr><td rowspan="3">主な支出
（科目、金額）</td><td>謝礼</td><td>4,102,600円</td><td></td><td></td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>委託料</td><td>758,000円</td><td></td><td></td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

○事業の内容

5 事業の概要 （誰のために何を行うか）	対象者：小学１年～３年生 概要：学校の放課後に公民館等の地域の施設を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域住民の参画を得て、子どもたちに学習や様々な体験・交流活動等の取組を実施する。
6 事業の目的、効果	目的：子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を育むこと 効果：工作や科学実験、百人一首など学校や家庭では経験できないことを体験しながら、地域の大人と交流し、子どもたちの居場所としての役割を果たしている。

○事業の状況

<table>
<tr><td>7 事業を取巻く環境の今後の変化予測</td><td colspan="2">指導員の高齢化もあり、今後も同じ体制での継承が懸念される。また、特別に支援の必要な子への受け入れ体制においてもそれを支援する特別支援サポーターの確保が難しいと予測されるが、近年、不安や孤独を感じる子どもが増加している中、子どもたちが身近に感じられる地域の居場所の存在である寺子屋事業は拡大が必要であると思われる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">8 今後の事業の方向性</td><td>方向性</td><td>左の「方向性」を選択した理由</td></tr>
<tr><td>①拡大</td><td>地域の大人が指導者となり、子どもたちに放課後の安心・安全な居場所を提供するため、開設場所を拡大する。特に長期休暇中に開催する学習会を拡大する。
・みんなの学びチャレンジプラン（第２期西尾市生涯学習推進計画）のアクションプラン№.２に掲載</td></tr>
<tr><td>9 事業の問題点</td><td colspan="2">指導員の高齢化、適切な人材不足などが懸念される。</td></tr>
</table>

教育委員会事業評価表

（評価対象 令和 4 年度）

○事業名及び予算額等

1 事業名	西尾市文化財保存活用地域計画策定事業						
2 担当課名	文化財課		担当者名	三田敦司	内線	56-2459	
3 予算科目	会計	一般会計		款	10	教育費	
	大事業	8	文化財保存活用地域計画策定事業	項	5	社会教育費	
	中事業	0		目	6	文化財費	
4 事業費（当該事業に関する部分のみ）	予算額	1,000,000円		決算額	990,000円		
	主な支出（科目、金額）	委託料	990,000円	（100%国補助）			

○事業の内容

5 事業の概要（誰のために何を行うか）	地域の大切な資産である文化財や歴史文化の価値と魅力を多くの市民が共有し、継承していくための、基本的な方針及び措置を示すことを目的とし、文化財保存活用地域計画の策定を行った。計画内容を審議するために西尾市文化遺産保存活用協議会を設置し、計画の作成は令和元年度から国庫補助事業にて実施した。令和4年7月22日に文化庁長官の認定を受けた後、報告書の印刷製本を行った。
6 事業の目的、効果	本計画は平成31年4月の文化財保護法改正で制度化されたもので、文化財保護行政の基本的な方針及び措置を示すことを目的とする。計画の策定により、中・長期的な計画に基づいた文化財保護行政を実施できるようになる。また文化庁の認定を受けることにより、補助金の優先的な採択や補助率が上がるなど国からの優遇策の対象となる。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	人口減少や少子高齢化、税収の減少傾向などの課題に対応するため、新たな魅力を創造し定住人口の増加あるいは交流人口の増加につなげる手段の一つとして、当市ならではの文化財や歴史文化を生かしたまちづくりへ寄せられる期待はより大きくなるものと考える。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	②現状維持	計画に基づき、市内の文化財の現状把握と未指定文化財の掘り起こしや指定に向けての調査、史跡や文化財の保存修理や整備事業を進める。
9 事業の問題点	計画に盛り込んだ事業を継続的に実施するための予算と人員の確保が課題である。	

教育委員会事業評価表

（評価対象 令和 4 年度）

○事業名及び予算額等

1 事業名	ブックスタート事業							
2 担当課名	図書館		担当者名	石崎　明美		外線	56-6200	
3 予算科目	会計		一般	款	10	教育費		
	大事業	6	図書館利用促進事業	項	5	社会教育費		
	中事業	0		目	11	図書館費		
4 事業費（当該事業に関する部分のみ）	予算額	794,000円		決算額	788,770円			
	主な支出（科目、金額）	ブックスタート用絵本	726,660円					
		ブックスタート消耗品	17,010円					
		ブックスタートシール	45,100円					

○事業の内容

5 事業の概要（誰のために何を行うか）	ブックスタートとは、西尾市に生まれたすべての赤ちゃんと保護者を対象に、４か月児健診会場にて、絵本の読み聞かせと、一冊の絵本をプレゼントする事業である。 乳幼児健診を行う保健師、ブックスタートの趣旨を説明する図書館職員、読み聞かせを行うブックスタートボランティアが連携して行う。
6 事業の目的、効果	赤ちゃんと保護者が絵本を介して、ふれあいを深めるきっかけを作り、親子のこころの健康作りと、乳幼児期からの親子の読書への興味を広げることを目的とする。 また、「西尾市子ども読書活動推進計画」に基づき、本に親しむきっかけ作りとする。

○事業の状況

7 事業を取巻く環境の今後の変化予測	スマートフォンやタブレットの普及により、子どもが一人でこれらの機器を見る機会が増えている。しかし、子どもの言葉の発達と豊かな心の形成を育むためには、乳幼児より生の声で話しかけ、親子で温かい時間を持つことが必要である。絵本を介してこのような時間を持つことができるブックスタートが、ますます重要視されると思われる。	
8 今後の事業の方向性	方向性	左の「方向性」を選択した理由
	②現状維持	乳幼児期からの読み聞かせは、親子関係や子育ての環境作りにも大きな意味を持つ。子育て支援や読書支援といった重要な役割を持つブックスタート事業は継続が必要である。
9 事業の問題点	コロナ禍でボランティアの参加を休止していた。そのためブックスタートボランティアのモチベーションが下がり、復帰されない方も多く、事業を進めていく上で支障をきたしている。ボランティアの養成が課題である。	